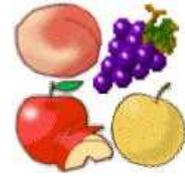


平成28年度 果樹情報 特別号 No.1 ～ ももせん孔細菌病の防除対策 ～ (平成28年4月21日)



福島県農林水産部農業振興課

病害虫防除所より「ももせん孔細菌病」について病害虫発生予察情報 注意報第1号が発表されました。

春型枝病斑の発生量は、今後さらに増加すると予想されますので、防除対策を徹底しましょう。

1 現在の発生状況

福島及び伊達地域では、4月中旬の春型枝病斑の発生ほ場割合が例年より高い状況であることから（図1）、病害虫防除所では平成28年4月20日に注意報第1号を発表しました。

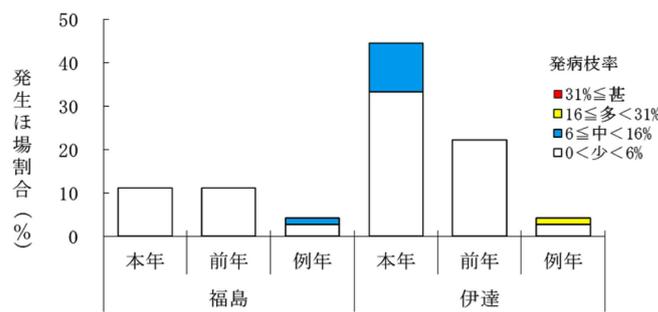


図1 春型枝病斑の発生状況（4月中旬）（例年：平成20年～27年）

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、参照してください。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬の散布は使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

2 防除のポイント

本病は細菌（バクテリア）の感染により発病し、ももの収量・品質が大きく低下します。**薬剤散布による防除**に加えて、**春型枝病斑のせん除による耕種的防除**の徹底が重要です。薬剤散布と耕種的防除を併せて実施し、**園内の病原菌密度を低く保つこと**が防除のポイントとなります。

(1) 耕種的防除（春型枝病斑のせん除）

春型枝病斑の発生が非常に多い状況です。今後の感染拡大を防ぐため、一次伝染源となる春型枝病斑や、枝病斑から感染した発病葉、発病果は見つけしだい、せん除しましょう。感染が続く7月頃までは徹底した被害部の除去を心がけてください。

ももせん孔細菌病の春型枝病斑を確認するポイント

園内をこまめに巡回し、1年枝皮部の黒変や新梢葉の生育不良を目安に、発病が疑われる枝は見つけしだい、せん除してください。

春型枝病斑をせん除する場合、健全部を含めてせん除し、罹病部位が樹上に残らないように注意しましょう。

なお、せん除した枝等は園外に持ち出し、適切に処分してください。



果実の初期発病は褐色の小斑点です

(2) 薬剤散布による防除

本病の病原菌は雨滴に混じって分散し、これに風が伴うと広範囲に発生が拡大します。

今後、降雨（風が伴う場合は特に注意）を重ねるごとに、春型枝病斑や発病葉、発病果等の伝染源から感染が拡大するおそれがあります。

各地域の防除暦に基づき、降雨前の予防散布を心がけるとともに、散布間隔は10日間とし、十分な薬液量での散布を徹底しましょう。

なお、同一薬剤の連用は耐性菌出現の危険性があるので、連用せずにローテーションで使用してください。

(3) 有袋栽培の導入

果実は幼果ほど感染しやすいので、早い時期からの被袋により、果実感染防止効果が期待できます。発生が多い園では、有袋栽培を検討しましょう。

なお、被袋作業に当たっては、早めに仕上げ摘果を終了し、被袋直前には薬剤散布を行う等、計画的に作業を進めましょう。

(4) 防風対策

本病は、風を伴う降雨により広範囲に感染が拡大します。

風当たりの強い園地では、防風ネットの設置を検討しましょう。

(5) その他の対策

園内の停滞水等による過湿条件では、葉の気孔が開き、ここから病原菌が侵入して急激な感染を引き起こす要因となるので、排水対策を徹底しましょう。

また、肥培管理を徹底し、適正な樹勢を維持することにより病害に強い健全な樹づくりを心がけましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>